琉球大学学術リポジトリ

創刊にあたって

メタデータ	言語:
	出版者: 琉球大学移民研究センター
	公開日: 2018-11-13
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 森田, 孟進, Morita, Moshin
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://doi.org/10.24564/0002010174

創刊にあたって

琉球大学学長　森田孟進

沖縄県は、よく知られていますように「移民県」であります。移民統計をご覧になれば歴然たるものがありますが、移民数・海外在住者数・海外在住者率ともに全国一であり、現在二世・三世を含めた県系人数は約34万人と推定され、全日系人約270万人中の13%を占めています。海外いたるところに生活の場を求めた沖縄県人は、当地において、県人会や同志会・クラブなどを組織し、活発に活動しているだけでなく、移民送出地域、各国県系人との間で緊密なネットワークを形成しています。

南米のブラジル・アルゼンチン・ペルー・ボリビアでも、沖縄県系人が日系人の中の大多数を占めるようになっていますが、ここ十数年、状況が一変し、二世・三世の日本への出稼ぎが目立つようになりました。そのような動きは、当然、これまでのような「移民像」では捉えられない、新しい「移民像」の創出が求められ、移民研究の新しい地平を開いていくことが必要だということになります。

これまでの移民研究は、移民先国の県人会等からの要請もあり、1978年度以降、琉球大学法文学部の教員を主体に、沖縄県出身移民に関する地理学的研究や社会学的研究が行なわれてきました。とりわけ、南米の調査、研究に関しては、報告書や論文等も公刊され、大きな成果をあげてまいりました。

近年では、旧南洋群島に関する調査、研究等も纏められ、移民関係資料も相当数蓄積されてきております。

移民に関する調査、研究は、県内市町村でも早くから始まっていましたし、現在進行中の地域も少なくありません。これら市町村史編集作業においては、本学法文学部地理学教室所蔵の移民関係資料が活用されてきました。移民研究活動の過程で蓄積されてきた関係資料には、一次資料として貴重なものも数多く含まれております。これらの資料をデータベース化し、公的に利用できる場を形成できないかという要望に答えるべく、移民研究センターの設置が緊急の課題となっていました。

このような背景から、琉球大学移民研究センターは、本学法文学部地理学教室所蔵の移民関係資料を移管するかたちで、平成15年12月1日に学内共同利用施設として設置の運びとなりました。

今回、そのスタッフが中心となって『移民研究』を発刊することとなりました。本誌を通じて多くの研究成果が発表され、移民研究がますます盛んになるとともに、本学移民研究センターが、世界いたるところに居住した県系人の調査、研究は勿論のこととして、今後の国際交流の潮流を踏まえ、内外の研究者や関係者などと連携をとりながら、世界における移民研究の拠点となるべく、活発な活動が展開されることを期待します。